JIMOREKI 地元歴史 再発見 MAGAZINE

この冊子の TV 番組

NEWS 地元の歴史を再発見！
ジモレキTV
地元ケーブルテレビ ベイコム12チャンネル
ベイコムチャンネル 検索

JIMOREKI 地元歴史 再発見

【　　著　　】丸山　健夫
【編集・デザイン】小野　日出夫
【T　　V】吉澤　剛
【アシスタント】橋本　雛
【製 作 協 力】阪神電気鉄道株式会社
株式会社阪神コンテンツリンク
株式会社ベイ・コミュニケーションズ
【写　　真】特に記載がない限り阪神電気鉄道株式会社提供
【協　　力】辻井　浩二（阪神電気鉄道株式会社）
西村　豪（尼崎市立地域研究史料館）
合田　茂伸（西宮市立郷土資料館）
久万　武彦（公益財団法人鳴尾会）
【主 要 文 献】『鳴尾村誌 1889-1951』（2005）西宮市鳴尾区有財産管理委員会
『輸送奉仕の50年』（1955）阪神電気鉄道株式会社
【発　　行】武庫川女子大学（丸山健夫研究室）

©mar.2016

武庫川女子大学 Mukogawa Women's University

阪神電車 "たいせつ"がキッと。 阪急阪神東宝グループ

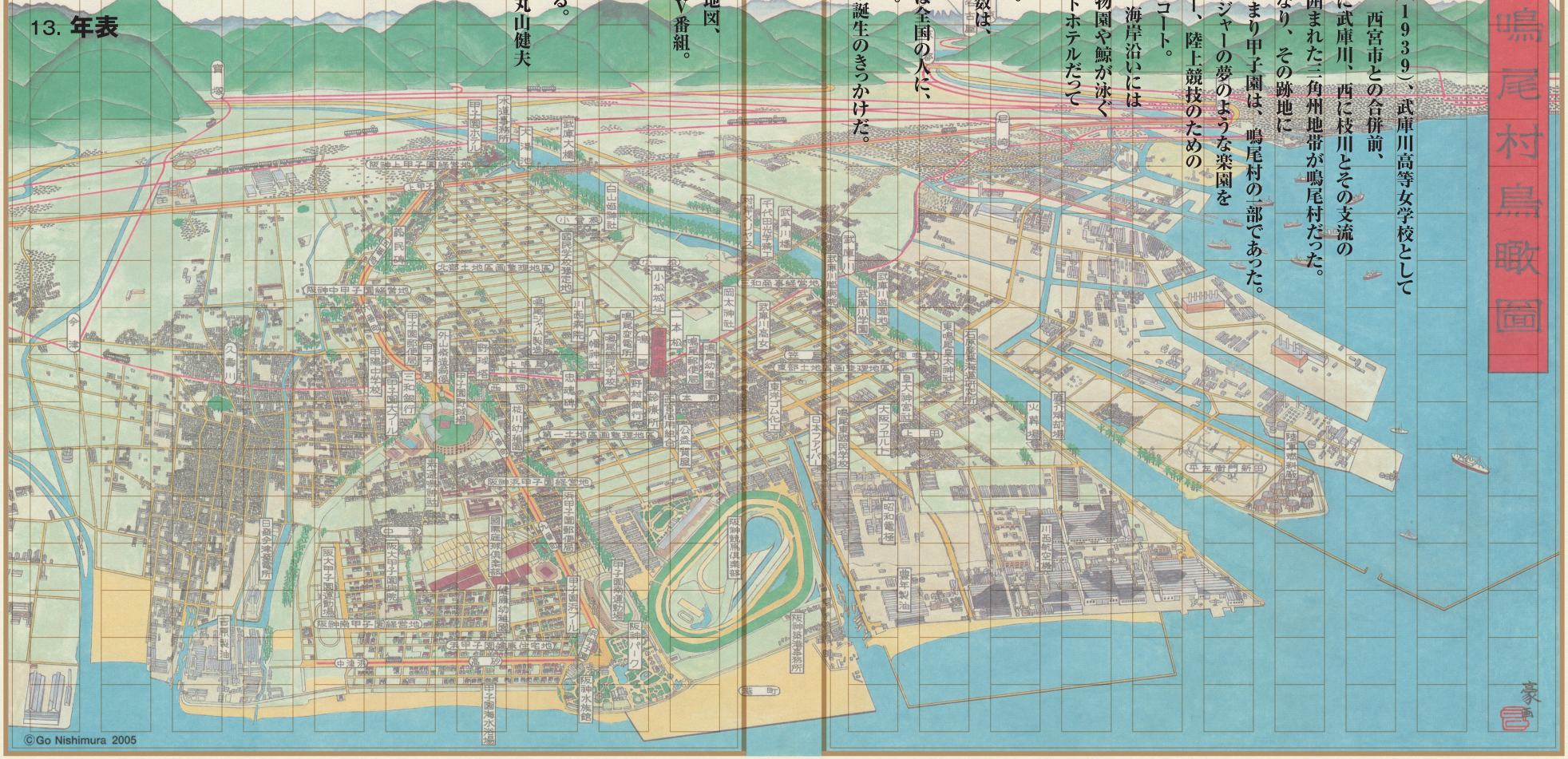
鳴尾村鳥瞰図

はじめに

武庫川女子大学は、昭和14年（1939）、武庫川高等女学校として兵庫県武庫郡鳴尾村に生まれた。西宮市との合併前、独立した鳴尾村で誕生した。東に武庫川、西に枝川とその支流の申川（さるがわ）。三つの河川に囲まれた三角州地帯が鳴尾村だった。大正時代、西側の河川は廃川となり、その跡地に建てられたのが甲子園球場だ。つまり甲子園は、鳴尾村の一部であった。

阪神電鉄は戦前、スポーツとレジャーの夢のような楽園を鳴尾村に創る。サッカーやラグビー、陸上競技のための甲子園南運動場。百面ものテニスコート。水泳連盟公認の甲子園大プール。海岸沿いには海水浴場や遊園地が作られ、動物園や鯨が泳ぐ東洋一の水族館もできた。リゾートホテルだって建設された。そして鳴尾村には、阪神競馬場やゴルフ場まであった。

現在、武庫川女子大学の学生数は、およそ一万人。その学生たちに、そして地元の人たちに、さらには全国の人に、こんな村があったんだと伝えたい。それがこのジモレキ・プロジェクト誕生のきっかけだ。



▲昭和 17 年の鳴尾村鳥瞰図：西村豪（2005）

Contents

03. 河川の跡にスポーツ王国
05. 海に沈む遊園地
07. 阪神競馬場は浜甲子園にあった
09. 武庫川団地はゴルフ場だった
11. SLの貨物が走った武庫川線
13. 年表

この冊子、街歩きにも便利な地図、そして地元CATVベイコムのTV番組。これら三つのメディアミックスで、鳴尾村の昔を知ってほしい。あなたにもきっと、小さな村の輝く歴史が見えてくる。

武庫川女子大学教授　丸山健夫

20×10

▼美しい屋根の甲子園駅(現在)

地元歴史 JIMOREKI 再発見

河川の跡にスポーツ王国

甲子園球場が、ふたつの川の分岐点の上に作られたことは有名だ。建設に先立ち阪神電鉄は、上流を閉め切って出来た枝川とその支流申川（さるがわ）の広大な跡地を兵庫県から購入した。そしてその土地を核にして、レジャーとスポーツの一大王国を築いたのだ。実は甲子園球場は、その壮大だった王国の、たったひとつの生き残りなのである。

写真を見てほしい。これは、戦後間もない1948年2月20日。当時日本に進駐していた米軍の撮影によるものだ。そこには阪神電鉄が建設した壮大な「スポーツ王国」の「痕跡」が、いくつも見て取れる。

▲甲子園筋が枝川だった頃

Baseball

▲甲子園大運動場の正面

Rugby & Soccer

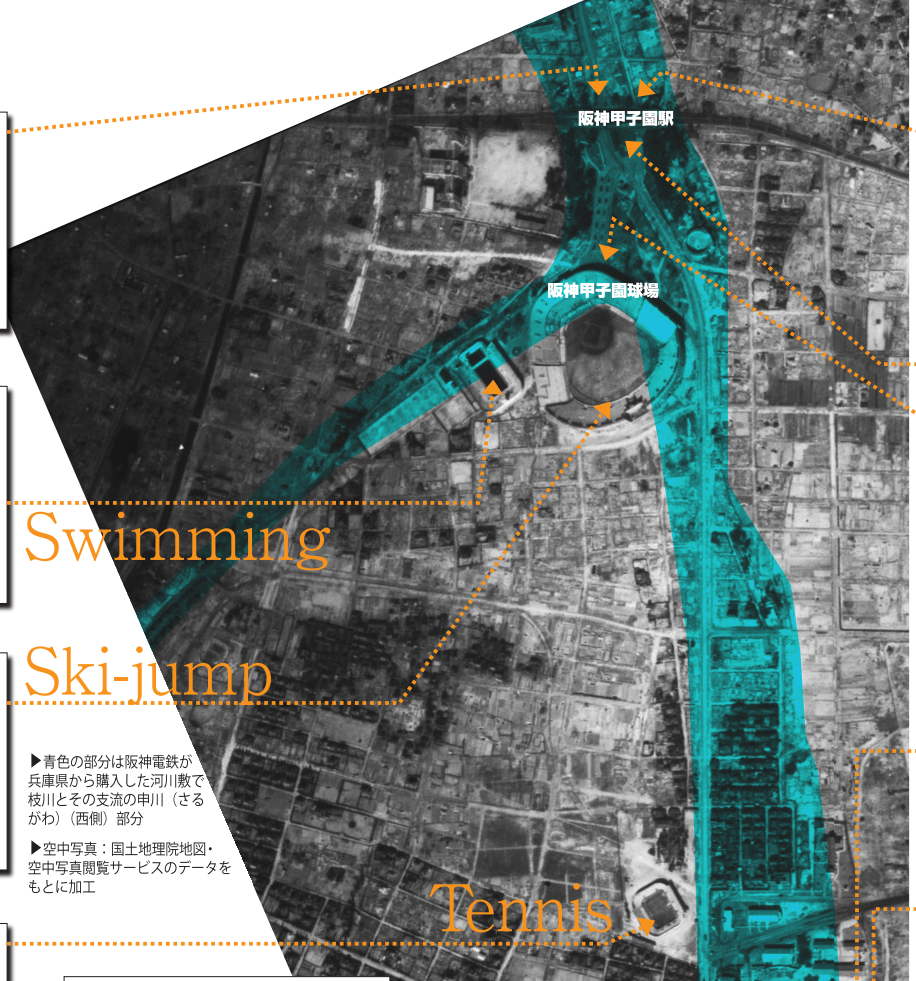
▲南運動場のラグビー国際試合

Athletics

▲甲子園筋から見た甲子園南運動場

Swimming

▲海で出来ない競泳に浜甲子園プール



▶青色の部分は阪神電鉄が兵庫県から購入した河川敷で枝川とその支流の申川（さるがわ）（西側）部分

▶空中写真：国土地理院地図・空中写真閲覧サービスのデータをもとに加工

▲甲子園筋の路面電車

Swimming

▲夜間照明もある大プール

Ski-jump

▲冬にはスキーのジャンプ大会

Tennis

▲国際庭球倶楽部センターコート

▶甲子園海水浴場

2万人収容の「甲子園南運動場」。ここでは陸上競技のほか、サッカーやラグビーの国際試合も開催され、今の高校にあたる旧制中学の全国大会も開かれていた。「甲子園」は、野球だけではなかったのだ。水泳も盛んだった。甲子園浜の海水浴場では水泳教室が開かれ、海で出来ない競泳のために隣接して「浜甲子園プール」が作られた。さらに甲子園球場に温水プールが設置され、球場の隣には、飛び込み台や夜間照明まで備えた「甲子園大プール」があった。テニスへの思い入れも中途半端ではない。国際試合ができる立派な「センターコート」のほか、練習用コートは、なんと近隣に百面もあったという。そして、これらの数ある施設をつなぐように、枝川の川筋であった甲子園筋には、阪神の路面電車が走っていた。

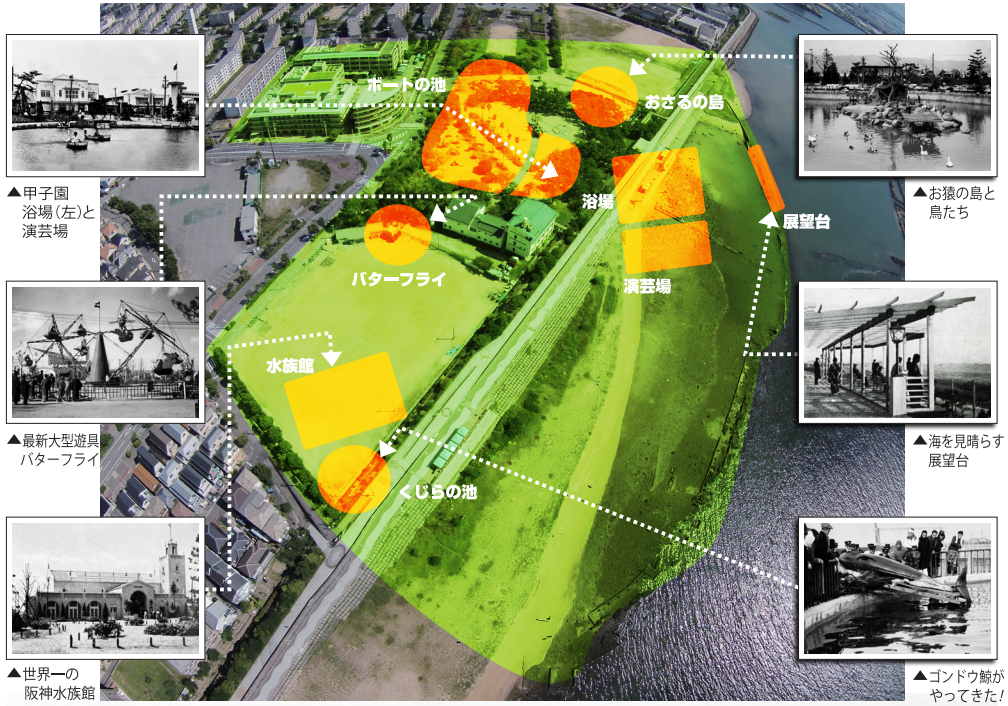
戦争さえなければ「甲子園」は、日本のありとあらゆるスポーツの、聖地となっていたかもしれない。

海に沈む遊園地
HANSHIN PARK

甲子園筋を南に進んだ突き当たりの海岸沿い。大潮になると海底から、まるで古代の遺跡のように、いくつもの人工の構造物が現れる。実は、ここに「阪神パーク」があったのだ。「阪神パーク」というと、「ららぽーと甲子園」のショッピングモールになっている場所にあったと年配の方なら答えるだろう。ヒョウを父に、ライオンを母にもつレオポンで有名な「甲子園阪神パーク」は、実は「阪神パーク」の2代目だった。

昭和3年（1928）、昭和天皇の即位を記念し、甲子園筋一帯を会場にして、「阪神大博覧会」が開催された。このとき、会場内に作られた浴場「甲子園浴場」と「演芸場」を核にして、昭和4年（1929）、阪神電鉄が「甲子園娯楽場」を開設。これが3年後、改称されて「浜甲子園」の「阪神パーク」となった。そこには、電気自動車や飛行塔、バターフライなど、最新鋭の遊具が数多く設置され、動物園や水族館も併設された。動物園は、当時一般的だったオリを並べただけの展示形式でなく、動物を放し飼いにするという展示方法を採用した。現代では当たり前になった形式の日本の草分けである。また水族館には、ベルギー製の特殊ガラスを使った世界最大級の大水槽や、阪神丸という専属の船までであった。昭和11年（1936）には、ゴンドウ鯨が8頭泳ぐプールまで作られた。「世界一の水族館」との呼び声も高かった。

ところが昭和18年（1943）春、飛行場をつくるため、海軍に接収され閉鎖。戦後に作られた堤防が、園内を縦断するかたちとなったため、全体の三分の一ほどが海に沈むことになる。干潮になると姿を見せる「遺跡」は、戦後の新堤防の外側になった遊園地の一部だったのだ。そこには、海を眺める展望台の基礎部分をはじめ、花壇の跡や「甲子園浴場」の湯口のエンブレムと思われる「ライオン像」も「浴場」跡に顔を見せる。引き潮のときに訪ね、「海に沈む遊園地」をロマンチックに眺めれば、海の何処からか、昭和初期の子どもたちの歓声が、聞こえてくるかもしれない。



▲甲子園浴場（左）と演芸場

▲お猿の島と鳥たち

▲最新大型遊具バターフライ

▲海を見晴らす展望台

▲世界一の阪神水族館

▲ゴンドウ鯨がやってきた！

▲浜甲子園阪神パーク案内図（昭和10年開設の水族館があり、くじらの池がないので昭和10年頃と推定）

阪神競馬場は浜甲子園にあった

HANSHIN KEIBA

▲国土地理院地図・空中写真閲覧サービスのデータをもとに加工

▶鳴尾競馬場（南東方向に撮影）

▼昭和７年の鳴尾競馬場（北西方向に撮影）

▼競馬場の正面玄関の建物（南西方向に撮影）

▼鳴尾球場（東側の第一球場で北東方向に撮影）

◀▶武庫川女子大学芸術館とその内部（著者）

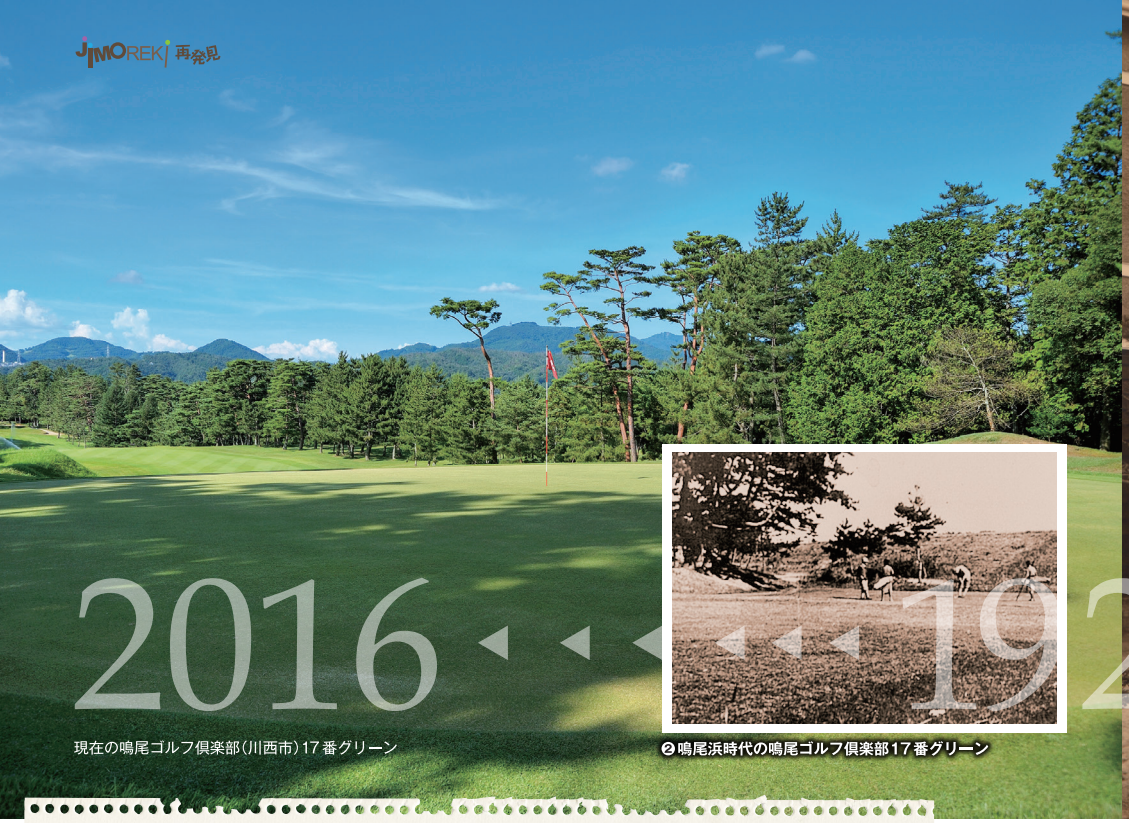
エックスのかたちにクロスする白い2本の滑走路。その上の黒い模様。昭和23年（1948）2月20日、米軍が撮影した今の浜甲子園団地付近の姿だ。当時、甲子園一帯は米軍に接収され、西日本全域の車両整備基地になっていた。滑走路の「模様」は、整備に集まった軍用車両である。終戦直前、ここには鳴尾飛行場があった。しかしもう少し時代をさかのぼれば、今は宝塚にある阪神競馬場があった。

明治40年（1907）、ここに競馬場ができた。ところが翌年、なんと馬券の発売が禁止となった。経営に困った競馬場は、飛行機イベントに貸し出した。これが人気となった後、今度は阪神電鉄に貸し出され、大正5年（1916）、トラック内部に鳴尾運動場ができた。テニスコートやプールのほか、鳴尾球場と呼ばれたグラウンドが2面作られ、当時の「高校野球」が誘致された。ところが大正12年（1923）、馬券が復活し、ふたたび競馬専門に。しかしトラック内には、鳴尾球場がある。このとき阪神電鉄は、実にタイミングよく兵庫県から枝川と申川の跡地を購入していた。その廃川跡に甲子園球場が突貫工事で作られた。大正13年（1924）8月1日、甲子園大運動場として甲子園球場は完成する。その12日後の8月13日、「高校野球」は開幕した。阪神電鉄の見事な「プレー」だった。

鳴尾競馬は、その後、順調に人気が出る。昭和10年（1935）には、近代的な建物に全面リニューアルし、のちに名前も鳴尾競馬場から阪神競馬場になる。ところが昭和18年（1943）、鳴尾飛行場をつくるため、海軍接収となったのだ。

飛行場にかわるとき、自慢の建物のうち正面玄関の部分だけは残され、管制塔に利用された。実はその建物が今でも残っている。武庫川女子大学附属中学校・高等学校の芸術館がそれだ。内部も復元され、競馬場の頃の姿を現代に伝える。

※馬の画像はイメージです。



現在の鳴尾ゴルフ倶楽部（川西市）17番グリーン

❷鳴尾浜時代の鳴尾ゴルフ倶楽部17番グリーン

❶クラブハウスの新築記念写真（写真は鳴尾ゴルフ倶楽部提供：3枚とも）

JIMOREKI 地元歴史 再発見

NARUO GOLF CLUB 武庫川団地はゴルフ場だった

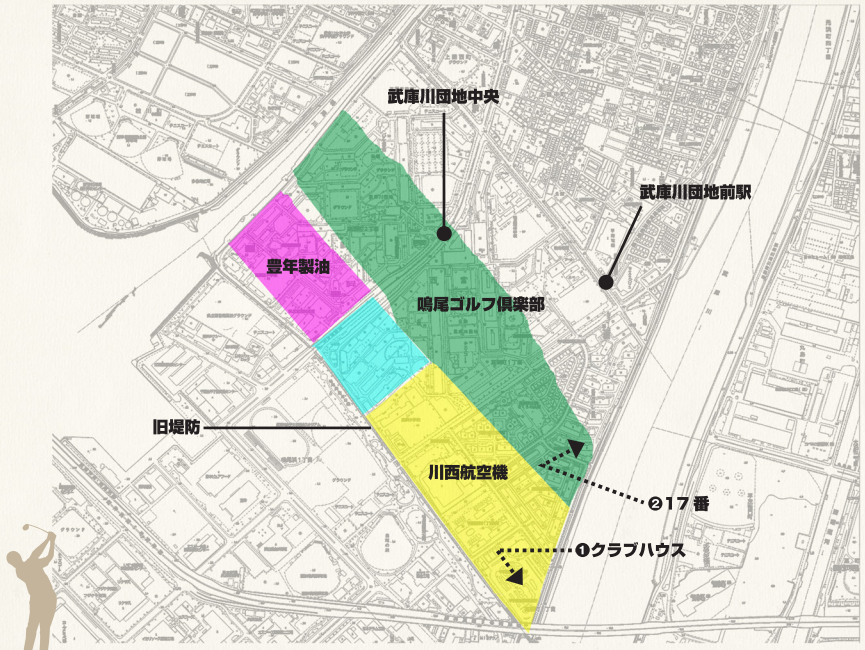
武庫川団地の人口は、およそ2万人。しかしその場所に日本屈指のゴルフ場があったことを知る人はほとんどない。昭和9年（1934）の『鳴尾村全図』から推定すれば、図の「緑の部分」がゴルフ場だった。

実はそれ以前はもっと広く、最盛期には18ホール、パー72、全長6,030ヤード。武庫川の河口付近には、素敵なクラブハウスもあった。大正14年（1925）11月8日。そのハウスの新築祝いの記念写真だ。そこには異国日本でゴルフの普及につとめた英人たちの笑顔がある。

明治時代、鳴尾には競馬場が2つあった。駅から各競馬場まで、まっすぐ続く2本の道。今ではその西競馬道と東競馬道は、イトーヨーカ堂の東側と関西スーパーマーケットの西側の道路になっている。ところが馬券の突然の禁止である。経営難から「武庫川団地」のほうの競馬場は廃止となった。その空き地に目をつけたのが、英人ロビンソンだった。彼は大正3年（1914）、そこを借りてゴルフ場を作った。そして、大正9年（1920）、彼の去った跡地が整備され、名門「鳴尾ゴルフ倶楽部」が誕生する。

昭和5年（1930）、川西航空機がゴルフ場の南半分の敷地に進出した。川西航空機は、日本最強の戦闘機「紫電改（しでんかい）」をつくる。このとき倶楽部は新天地を求め、一部が移転する。しかし鳴尾に残った北半分も営業を続けた。図の「緑の部分」のゴルフ場は、その頃のものだ。ところがさらに飛行機工場が拡張され、昭和14年（1939）、ついにゴルフ場が消えた。

実は「鳴尾ゴルフ倶楽部」は今でも、移転先の川西市西畦野（にしうねの）で、伝統ある「鳴尾」の名前を冠し、日本で3番目に古いゴルフ倶楽部となっている。



▲白地図は西宮市提供

❶今の武庫川団地前駅付近を走るSL

SLの貨物が走った武庫川線

地元歴史 JIMOREKI 再発見

MUKOGAWA LINE

❷武庫大橋付近のSL

阪神電鉄武庫川線には、かつて蒸気機関車、SLが走っていた。昭和30年（1955）頃の阪神電車の路線案内図がある。現在の武庫川線は、武庫川団地前駅から阪神本線の武庫川駅までの約1・7キロだ。しかし当時は、武庫川駅からさらに線路は北に伸び、武庫大橋、そしてJRの西宮駅付近まであった。このJR西宮から、当時は武庫川団地前駅付近にあった洲先駅まで、SLが貨物を引っぱって走ったのだ。

武庫川線は戦時中、今の武庫川団地の場所にあった川西航空機に、人や物資を運ぶためにつくられた。通勤の人々は、路面電車だった国道線の武庫大橋駅や本線の武庫川駅で乗りかえ、工場に向かった。そしてSLの貨物輸送が、戦前は軍の要請で、戦後も米軍の要請で、昭和33年（1958）頃まで続いた。

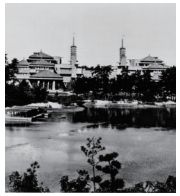
実は武庫川線の沿線には見所が多かった。東鳴尾駅付近には、明治39年（1906）、鳴尾百花園という料亭付き庭園が出来た。百花園は、のちに阪神電鉄の校外学習施設「武庫川学園」となり、創立まもない武庫川高等女学校は、そこを仮校舎として授業をした。百花園の堤防の反対側の河川敷には、阪神電鉄が武庫川遊園をつくった。路線図にも案内されるこのレジャーゾーンは、川遊びや桜の見物、しじみ狩りなどでにぎわった。

そして武庫大橋の近くには、「西の帝国ホテル」と評判の甲子園ホテルがあった。今では武庫川女子大学のキャンパスのひとつとして、元ホテルの建物が大切に保存されている。

今、武庫川線の廃線跡をJRの甲子園口から西宮方面に歩けば、線路を横断する小さな「マンボウ・トンネル」も現れる。そして終点近くには、武庫川線の蒸気機関車のための給水塔が残っていた。周辺は小さな公園となり、その名も「SL公園」。しかし肝心のSLの姿が何処にもない。ふと足元を見た。なんとそこには、タイル張りの大きな機関車の絵があった。SLが走った武庫川線。その歴史的事実は、SLのないSL公園の名前に、しっかりと残されている。

現在の武庫川線武庫川駅のホーム（著者）

❸SLと電車が並ぶ武庫川線武庫川駅のホーム



❹美しい甲子園ホテル

❺路面電車が走る武庫大橋

❻武庫川遊園のお花見

❼武庫川遊園の川遊び

▲昭和30年頃の阪神電車路線図

年表

chronological table

明38年（1905）阪神電車開通
明39年（1906）鳴尾百花園開設
大13年（1924）甲子園球場開設
大14年（1925）甲子園海水浴場開設
大15年（1926）阪神電鉄武庫川遊園開設
甲子園ローンテニス倶楽部結成
昭2年（1927）甲子園線開通（甲子園～浜甲子園）
昭3年（1928）阪神国道電軌（のち国道線）開通
甲子園線が上甲子園まで延長
浜甲子園プール開設
昭4年（1929）阪神娯楽場（阪神パーク）開設
昭5年（1930）甲子園ホテル開業
甲子園線が中津浜まで延長
昭6年（1931）阪神電鉄武庫川学園開設
昭10年（1935）武庫川学院創立者公江喜市郎氏欧米教育視察
阪神水族館開設
鳴尾競馬場リニューアル
阪神タイガース発足
昭12年（1937）甲子園大プール開設
昭14年（1939）甲子園国際庭球場開設
昭18年（1943）武庫川高等女学校開校
昭19年（1944）武庫川線開通
武庫川線が武庫大橋まで延長
武庫川線が西宮まで貨物線を延長
昭21年（1946）武庫川女子専門学校開校
昭22年（1947）昭和天皇が武庫川学院をご視察
昭24年（1949）武庫川女子大学開学
昭25年（1950）阪神パークが甲子園で再開
昭26年（1951）鳴尾村が西宮市に合併
昭40年（1965）甲子園ホテル跡が武庫川学院に
昭50年（1975）国道線・甲子園線廃止
平2年（1990）武庫川女子大学アメリカ分校開設
平16年（2004）ららぽーと甲子園グランドオープン

浜甲子園団地周辺

明40年（1907）関西競馬場（のち鳴尾競馬場）第一回競馬
明41年（1908）馬券発売禁止
明43年（1910）2つの競馬場が合併（鳴尾競馬場に統合）
明44年（1911）飛行機イベント始まる
大5年（1916）鳴尾運動場（鳴尾球場）開設
大12年（1923）馬券発売復活
昭10年（1935）鳴尾競馬場リニューアル
昭18年（1943）鳴尾飛行場開設
昭35年（1960）鳴尾飛行場跡の一部が武庫川学院に（阪神競馬場の玄関建物を含む）
昭37年（1962）浜甲子園団地入居開始

武庫川団地周辺

明41年（1908）鳴尾速歩競馬場第一回競馬
馬券発売禁止
明43年（1910）競馬場が統合により廃止
大3年（1914）ロビンソンがゴルフ場を開設
大7年（1918）豊年製油工場完成
大9年（1920）鳴尾ゴルフ倶楽部創立
昭5年（1930）川西航空機本社工場完成
昭54年（1979）武庫川団地入居開始
昭59年（1984）武庫川線が武庫川団地前まで延長

1942 昭和17年の鳴尾村

▲「大阪市所蔵・航空写真（昭和17年）」（大阪市提供）

JIMOREKI 地元歴史 再発見【付録】

武庫川女子大学 Mukogawa Women's University
阪神電車 "たいせつ"がギュッと。 阪急阪神東宝グループ

1942 昭和17年

JIMOREKI 地元歴史 再発見

©Go Nishimura 2005

▲昭和17年の鳴尾村鳥瞰図：西村豪（2005）

①甲子園球場

大正13年（1924）に、武庫川の支流枝川とその また支流申川（さるがわ）の河川跡地に、阪神電鉄が建設した世界トップクラスの野球場。全国中等学校優勝野球大会（夏の甲子園）と全国選抜中等学校野球大会（春の甲子園）が開催されることで有名。昭和10年（1935）、職業野球（プロ野球）の大阪タイガース（阪神タイガース）が発足し本拠地に。

②甲子園駅

甲子園球場の完成により、阪神電車の枝川にかかる橋の場所にあとから設置された。駅前の高架は、もともと川だったため。駅から北へ向かう道路も、なだらかに東にカーブし、かつての川の流れを想い起こさせてくれる。河川から道路となった甲子園筋に、阪神電鉄甲子園線の路面電車が走る。

③鳴尾駅

明治38年（1905）の阪神電車開通と同時に開設。建設前に地元鳴尾の辰馬（たつうま）家が、「必要な用地はすべて無償で提供するからぜひ鳴尾村に！」と熱心に願い出た。そこで阪神電鉄が地元の要望をきき、線路は鳴尾村までカーブした。曲線の駅の理由には、そんなエピソードが。

④阪神競馬場

阪神電車開通の2年後、明治40年（1907）に競馬場が出来た。ところが翌年、急に馬券の発売が禁止に。困った競馬場は、曲芸飛行のイベントや鳴尾球場として貸し出すも、大正12年（1923）、ふたたび馬券が復活。競馬場は息を吹き返して大人気。のちに名前も、鳴尾競馬場から阪神競馬場に。

⑤川西航空機

日本屈指の飛行機製造会社。昭和5年（1930）、この地に本社工場が完成。滑走路がなくても海上で離着ができる水上機が得意。（旧）海軍直轄の工場として発展。

⑥武庫川遊園

大正15年（1926）、武庫川の河川敷を整備して、阪神電鉄が作ったレジャーゾーン。桜の植樹や運動場があり、川遊びやしじみ狩りも。

⑦武庫川学院

昭和14年（1939）、公江喜市郎（こうえきいちろう）氏が、武庫川高等女学校を創立。川高倍率の第一期生入試業務は、甲子園ホテルで行われた。

⑧甲子園ホテル

昭和5年（1930）開業。阪神電鉄が立案し米国の建築家フランク・ロイド・ライト氏に学んだ遠藤新（あらた）氏が設計。西の帝国ホテルと評判。

⑨武庫川学園（鳴尾百花園）

明治39年（1906）、庭園やボート遊び、料理も楽しめる鳴尾百花園として誕生。昭和6年（1931）、阪神電車が引き取り、子どもたちの郊外学習の場として提供。昭和14年（1939）創立の武庫川高等女学校も本校舎の完成までの当初1年間は、阪神電鉄からこの施設を借りて授業。

⑩甲子園大プール

甲子園球場に隣接し、1万人収容の観客席を持つ本格的プール。日本水泳連盟の神宮プールに続く第二号公認プール。水深5mの飛び込み台付きプールや夜間照明も併設。昭和12年（1937）、阪神電鉄が開設。

⑪甲子園国際庭球場

1万人の観客が収容できるテニスのセンターコートは、昭和12年（1937）開設。その周辺には、テニスコートがおよそ百面もあり、世界一のテニスの殿堂との声も。一帯は「百面コート」の愛称で呼ばれる。

⑫浜甲子園プール

甲子園球場完成の翌年、大正14年（1925）に阪神電鉄が甲子園海水浴場を開設。水練学校の生徒が、海ではできない競泳やダイビングに挑戦するため、昭和3年（1928）、このプールが設置される。

⑬甲子園南運動場

昭和4年（1929）、阪神電鉄により、2万人収容の日本有数の競技場として誕生。陸上競技や蹴球（しゅうきゅう）（ラグビー、サッカー）の国内大会や国際試合、中等学校（高校）の全国大会などを多数開催。

⑭阪神パーク

昭和4年（1929）、阪神電鉄が、甲子園娯楽場として開設。昭和10年（1935）に、世界有数の水族館も併設。動物の放し飼いによる飼育方式の日本での先駆け。飛行塔、電気自動車、バターフライなど、最新遊具も完備。

1948 昭和23年～現代

3つの川に囲まれた三角州にあった旧鳴尾村。その村の中にスポーツとレジャーの夢の王国が完成する。
戦争でその楽園は消え去り、人々はまた新たな夢を追って立ちあがった。

▲米軍撮影空中写真（1948年2月20日）：国土地理院地図、空中写真閲覧サービスのデータをもとに加工

▲2010年2月 阪神コンテンツリンク撮影

甲子園球場

阪神甲子園球場が正式名。夏の高校野球（全国高等学校野球選手権大会）と春の高校野球（選抜高等学校野球大会）の開催地として全国に知られる。プロ野球・阪神タイガースのホームグラウンドとしても有名。

甲子園駅

美しい白い大きな屋根を持つ駅にリニューアル。甲子園球場の最寄り駅。甲子園線の路面電車は、昭和50年（1975）に廃止。

鳴尾駅

高架駅となり、カーブを生かした現代的なフォルムが美しい。武庫川女子大学建築学科も設計に参加。

阪神競馬場

昭和 18 年（1943）春に海軍に接収されて鳴尾飛行場となり、戦後、浜甲子園団地に。昭和10年（1935）にリニューアルの正面玄関は、飛行場の管制塔となったあと、武庫川女子大学附属中学校・高等学校の芸術館として今も残る。

甲子園国際庭球場

かつての「百面コート」の一部は、甲子園競輪場などをへて現在は住宅地に。テニスの伝統は、今も甲子園球場隣の甲子園テニスクラブに。

甲子園南運動場

浜甲子園団地の開発で、現在は住宅地に。

阪神パーク

干潮になると、海岸沿いに「初代阪神パーク」の痕跡が姿をみせる。戦後の新堤防建設でその３分の１が「海に沈む遊園地」となる。甲子園駅に近い新天地で二代目「阪神パーク」が復活。その二代目も現在は「ららぽーと甲子園」に。

甲子園大プール

テニスコートになったあと、球場の関連施設が建つ。

浜甲子園プール

整地されてプール沿いの松だけが残る。

武庫川学園（百花園）

かつての園内の堤防沿いを今では武庫川線が走る。堤防に、正門への道と思われる小道が残り踏切がある。そのほかは住宅地に。わずかに境界の痕跡が残る。

武庫川学院

戦後、いち早く復興をとげた学校として、昭和 22 年（1947）6 月 12 日、昭和天皇がご視察された。ベランダから手を振られた校舎が、武庫川学院記念館として現在も残る。

武庫川遊園

かつての遊園の中心地は、今でも河川敷がやや広い。川遊びの人々を見守った松だけが残り、休日はジョギングやサイクリングを楽しむ人たちでにぎわいをみせる。

甲子園ホテル

終戦直前に海軍病院となり、戦後は米軍の施設に。昭和 40 年（1965）、武庫川学院が引き取り、復元に努力。現在は武庫川女子大学甲子園会館としてキャンパスに。

川西航空機

戦闘機「紫電改（しでんかい）」を開発。その試作機は、昭和 19 年（1944）1 月 1 日、鳴尾飛行場から飛んだ。その後、広大な工場の跡地は武庫川団地に。

JIMOREKI 地元歴史 再発見

【著】丸山　健夫【構成・デザイン】小野　日出夫【TV】吉澤　剛【アシスタント】橋本　譲【製作協力】阪神電気鉄道株式会社／株式会社阪神コンテンツリンク／株式会社ベイ・コミュニケーションズ
【写真】特に記載がない限り阪神電気鉄道株式会社提供【協力】辻井　浩二（阪神電気鉄道株式会社）／西村　豪（尼崎市立地域研究史料館）／合田　茂伸（西宮市立郷土資料館）／久万　武彦（公益財団法人鳴尾会）
【主要文献】鳴尾村誌 1889-1951（2005）西宮市鳴尾区有財産管理委員会　／　輸送奉仕の５０年」（1955）阪神電気鉄道株式会社【発行】武庫川女子大学（丸山健夫研究室）
©mar.2016